

病と健康をめぐる

中野重行 ニンゲン学

人は自分の身や周辺で起こったことに関して、実際は脈絡もなく時間的に前後して起こったただけなのに、前に起こったことの影響で後のことが生じたと、因果関係で捉えてしまう傾向があります。これは人間の脳の仕組みによるものです。

ピなどマスコミで紹介される情報でもしばしば見掛けます。

自然治癒力や他の要因の影響で回復したにもかかわらず、治療法の効果として宣伝することで長く続いてきた民間療法も多くあると考えられます。

マスコミは治療法や健康法の効果を説明するのに、少数の人を対象に治療前後の数値を計測して、その

す。本当に効果があるかどうかを見極めるにはどのような方法で検証すればいいのでしょうか。科学的に因果関係を実証する方法として、薬の効果を確かめる臨床試験があります。特に前後即因果の誤謬に陥らないための臨床試験の一つとして、二つ以上のグループを対象に同じ条件で同時に臨床試験をして比べる「同時比較試験」があります。

しかし、実際には時間的に前後して起こったことの間には因果関係がないこと

同時比較試験で重要なのは、二つ以上のグループの対象者（被験者）を試験者の先入観や恣意的な意図が入らないように無作為に

薬や治療法の効果確認

ランダム化比較試験で

も多いのです。このような判断の誤りを「前後即因果の誤謬（間違）い」といいます。医療の分野でもこの誤謬は見られます。

人には自然治癒力（自然回復力）が備わっていて、ある程度の病気や症状などは自然に回復する力を持っています。しかし、痛みや不安感などの症状のある患者は薬や治療機器を使って症状が軽くなると、人は「使ったことで治った、だから効果がある」と、自然治癒力を考慮せずに因果関係で判断をしてしまう傾向があります。

数値の変化だけで判断することがあります。肥満解消、アンチエイジング（抗加齢）、美容などへの効果を強調する宣伝でも似たような数値の紹介をする例を見掛けることがあります。

（ランダム化して）選び、グループ間の偏りを小さくすることです。このような「ランダム化比較試験」によって薬や治療法の効果を確認することができます。

前後即因果の誤謬の例は、民間療法や新聞、テレビ

わらをもつかむ気持ちになっっている人は期待が先行するため、効果ははっきりしない健康法でも大金をつぎ込むことがあります。しかし、これは賢い判断とはいえません。実際、そのような健康法を取り入れなくても、日常生活での食事や運動、気持ちの持ち方などを直すだけでも効果が表れることがあるので

ランダム化比較試験は、新薬をはじめ、さまざまな治療法の効果や安全性を確認するために、世界中で採用されています。医療機関で使用されている医薬品は、このようなランダム化比較試験を合格した後に、厚生労働省の承認を得て処方されています。

（大分大学名誉教授、元同大病院長）